

# スクールソーシャルワークと学校現場

2単位

担当教員:安藤 健一

学校現場で行われているソーシャルワークの基礎知識と実践を学ぶ

## 講義目的・到達目標

### スクールソーシャルワークの基礎知識を学び、相談援助について理解を深める

学校や家庭での生活の様々な場面で生じる、いじめ、不登校、人間関係づくりなどの困難状況において、子どもの立場に立って解決に取り組む支援システムがスクールソーシャルワークである。本科目ではスクールソーシャルワークに関する基礎的な知識を学び、ソーシャルワーク実践の理解を深めることを目的とする。

### スクールソーシャルワークの必要性和今後の課題について考える

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などが教育現場で生じている問題状況や背景には、子どもの心の問題と複雑に絡み合った環境的な問題がある。そのため、子どもたちと環境に働きかけ、その課題解決を図るスクールソーシャルワーカーの活躍が期待されている。授業では、スクールソーシャルワークに関する知識だけを習得するだけでなく、現場で働くスクールソーシャルワーカーから話をお聴きし、子どもたちが置かれている現状を理解する。また、学校という生活の場で展開されるソーシャルワークの必要性和課題、そして教育の場で展開される「子どもへの支援」について考えていく。

## 講義の構成

### 講義の流れ

講義は、導入として目的・目標を明確にし、全体の進め方を確認する。次に、スクールソーシャルワークについて基礎知識を学ぶ。学校を生活の場として捉え、子どもの支援を目的とする実践について理解を深める。また、ゲスト講師であるスクールソーシャルワーク実践者等から話を聴き、現場での実践について学ぶ。次に、スクールカウンセリングとの共通点や相違点を授業担当者が講義する。また、グループ討議により学校におけるソーシャルワークの意義や必要性を考える。

1 講義の目的・目標について理解し、スクールソーシャルワークについて理解をする

2 スクールソーシャルワークの対象を理解し、生活の場での支援について学ぶ

3 ゲスト講師による実践報告から学ぶ

4 スクールカウンセリングとの相違を理解する

5 学校でのソーシャルワークの意義を考える

6 科目修了試験(レポート作成)

### 講義のポイント

学校という場にソーシャルワークが導入されたことは大きな意義がある。そのことが、講義およびゲスト講師の話の中で十分に伝わるように配慮したい。なお、この講義はスクールソーシャルワークの概要について学ぶものであり、専門職として現場に出るための演習や訓練を行うものではない。授業参加に関しては、質疑応答や個人およびグループワークなどを取り入れ、履修者同士が意見交換をできる場を設ける予定である。履修者の積極的な参加を望みたい。

## 受講するにあたって

- ①事前学習のすすめ 事前学習として、web上で検索し「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」および「スクール(学校)ソーシャルワーカー育成・研修等事業に関する調査研究報告書」に目を通し、基本的な理解と課題について考えておくことが望ましい。さらに、参考図書を読んでおくとう理解がしやすいと考える。
- ②参考図書 文部科学省が発表している『スクールソーシャルワーカー実践活動事例集』(平成20年12月)等各種資料  
日本社会福祉士養成校協会『スクール(学校)ソーシャルワーカー育成・研修等事業に関する調査研究報告書』  
山下英三郎・牧野晶哲・内田宏明著『新スクールソーシャルワーク論:子どもを中心にすえた理論と実践』学苑社、2012
- ③評価基準 科目終了試験(レポート)および授業への参加態度で評価を行う。
- ④より学びを深めるために 講義内で紹介する書籍やホームページ等を問題意識をもって読み込むこと。